研究テーマ	〔Ⅲ　自分らしさを表現する造形教育を考える〕 試したり見つけたりしながら，自分らしい造形的な表現の追求と発見をする導入や展開の工夫　　～第５学年　「でこぼこ広場に絵の具が走る」の実践を通して～

八千代町立安静小学校　教諭　原部　夏代

１　研究テーマについて

（１）　テーマ設定の理由

小学校高学年図画工作科の目標に，「創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに，つくり出す喜びを味わうようにする」とある。周囲とのかかわりの中で自分らしい表現活動を充実することが，意欲的に表現したり鑑賞したりする態度をはぐくむとしているが，高学年の児童の実態をみると，一人一人の関心が広がり，表現の個性化がみられる一方で，人物や風景を題材に取り上げると，「うまく描けない」ことが児童たちの負荷となり，苦手意識をもったり，活動の意欲を失わせてしまったりすることがよくある。しかし，このことは児童がもっといろいろな自由な表現があることを知らないだけで，自分なりに納得のいく表現活動の幅を広げてあげられるような題材の工夫や，授業の展開や評価方法の見直しによって，目標の実現が可能になるのではないかと考える。

本研究は，「自分らしさを表現する造形教育を考える」をテーマとしている。児童たちは，描いたりつくったりする意欲はもっているが，自分の表したいものがなかなか思いつかなかったり，安易に作品例を真似てつくったりするなど，「自分らしい表現」ができているとは言い難い。自分の感じたことや考えたことを大切にした発想や構想をもとに，さらに思いを広げたり深めたりする活動を取り入れ，児童一人一人の思いや願いを大切にした豊かな表現活動へと広がるようにしたいと考える。そのために，材料や用具にも広がりをもたせて，試したり見つけたりする作業を多く取り入れ，自分なりに納得のいく表現活動へと高めていきたい。

今までの実践を振り返ると，自分なりの思いをもって，意欲的に表現する児童の姿は見られるものの，安易な一斉指導により，一人一人の思考の流れを見取ることの出来ないことが多かった。また，学習支援の不十分さから，「何を表していいのか分からない」と悩んでいたり「これでいいや」とあきらめてしまったりする児童も見られた。自由な表現活動の場や表現方法に触れながら「自分らしさを表現する」ことは，表現する喜びや楽しさを実感しながら，感じる力や心を育て，自分自身の自信へとつなげ，豊かな情操を育むことであると考える。自分らしさを表現する児童を育成するために，造形活動を，単に楽しい活動に終わらせるのではなく，表したいものの発想・構想を広げ，創造的な技能を高めさせる必要がある。さらに，活動中の具体的な児童の姿をとらえて，児童に身に付いた力は何かという見取りや評価を効果的に取り入れる工夫について研究し，自分らしさを表現する造形活動の指導や評価について明らかにし，今後の学習指導の改善につなげていきたい。

（２）　研究内容

ア　題材の工夫

これまでの表現形式を見直し，自分なりに納得のいくいろいな表し方や表現活動の幅を広げられるような題材を取り入れることで，自分らしさを追求する児童を育成できるであろうと考える。

・見たこと，想像したこと，感じたこと，考えたことが自由に組み合わされ，児童が「つくりたい」「描きたい」という思いをふくらませ，新しい表現への意欲や好奇心をかきたてられ，思うままに自己表現のできる題材を設定する。

イ　発想や構想を広げるための学習指導の工夫

児童が自分や対象と向き合い，作品に込める自分の「思い」を明確にして創作活動に取り組めば，達成感のある授業が展開できるであろうと考える。

・集めた材料を，切ったり組み合わせたり作り変えたりすることで，様々に変化することを体験させ，作品のイメージを形成する時間を確保する。

・画面をいろいろな角度から見て，できた線や形から受けるイメージをもつ時間を設け，表現の幅を広げる。

・表現に対する考えを深め，自由な発想や豊かな表現活動への意欲を高めると共に，構成や彩色に関する感性を育てるために，数人の画家の抽象画の鑑賞を取り入れる。

・自分の思いや作品に込めるイメージを明確にしていくため，児童が表したい思いを言葉や絵で記入したイメージマップや，作品の途中経過をデジカメなどで記録した図工カードを活用する。

ウ　創造的な技能を生かすための学習指導の工夫

造形的な創作活動の基礎的な能力を身につけ，それらを生かして自己の表現世界を主体的・個性的に広げていく活動に取り組めば，「自分の思い」にふさわしい技法で表現できる児童が育成できるであろうと考える。

・多様な材料・用具・参考作品などから，自分の思いにあった表し方を見つけたり，試したりする場を設ける。

・前学年までの材料や用具などについての経験や技能を生かして，児童のもてる力を十分に発揮できるようにする。

・これまでに経験してきた材料や用具に加えて，初めて経験する表し方に取り組んだり，いくつかの表し方を組み合わせたりする。

エ　児童への支援・評価方法の工夫

児童への一方的な指示や指導，また，作品だけによる評価ではなく，共感を中心とした支援，つくる過程での児童の具体的な姿を見取る評価をすれば，表現する喜びや楽しさを実感しながら，自分らしさを表現できるであろうと考える。

・意欲が低下しつつある児童をすばやく見つけ，寄り添い，何をしたいのか，何で困っているのかを聞き取り，児童に適したヒントや方法を提案する。

・つくる過程で，児童の思いやイメージしている表現を聞き取り，共感を伴った言葉がけをする。

・具体的な児童の活動の姿をイメージした評価規準によって評価する。

研究にあたっては，「自分らしさを表現する」児童の姿を「自分の思いを大切にしながら，思いにあったものに近づけようと，もてる力を十分発揮しながらつくることができる」と考え，教師による評価の他，自分の思いにどこまで近づけられたかといった内容の自己評価も取り入れる。

表現することに自信のない児童も含め，表現することを自分自身の自信へと結びつけ，自らつくりだす喜びを味わい，他のよさを認めたり，美しいものを感じ取ったりする豊かな情操を養うために，児童の見取り，声掛け，評価，効果的な鑑賞を大切にしていきたい。

2　実践例

（1）題材名　　でこぼこ広場に絵の具が走る

（2）題材の目標

身の回りの材料の特徴を生かしてでこぼこの画面を造り，そこから自分の思いや発想を広げ，自分らしい表現活動を工夫する。

（３）題材について

研究テーマである「自分らしい造形的な表現」に迫らせていくために，２つの視点を大切にした題材を取り上げた。まず，１つ目は，自分で材料を集め，ものの形やさわり心地のよさを感じたり，材料の生かし方や組み合わせ方を考えたりしながら，自分の思いを広げていく活動ができることである。２つ目は，偶然できた形や線から，自分の思いを膨らませながら，つくり，つくり変えをくり返し，自分らしい造形的な表現を追求していく活動ができることである。

本題材は，身のまわりにある材料を白く固めて，でこぼこの画面をつくることから始まる。まず，児童には，今まで使ってきた平面の画用紙ではない，「自分だけのオリジナル画用紙をつくろう」と投げかける。線や形を自由に画面に構成し，形の美しさや偶然できる形のおもしろさを体験させたい。さまざまなものを並べたり，重ねたりすることで，身近にあるものの形から新しい形やリズムが現れたり，素材の違うものの形が隣り合うことで，今まで味わったことのない感じが生まれるよさを味わわせたい。

次に，さまざまな材料を貼り付けたでこぼこの画面に液体粘土を白く塗り固め，オリジナル画用紙づくりを楽しませたい。画面づくりの中で，特に大切にしたいのは，材料となる画材や表現方法に進んでかかわり，自分らしい表現を考えながら造形活動をしていくことである。表現を試したり，自分の思いを感じることを繰り返すことで，思いにこだわりや深まりが表れることが期待できる。自分のイメージをふくらませながら自分らしい表現を追求できるようする。

また，色を塗る際には，筆だけでなく，いろいろな材料を使い，教師側でも技法を数種類紹介し，試してみたい物を自由にできるようにしていく。そうすることで，遊び感覚で，でこぼこの画面に偶然できた線や形，色のおもしろさも楽しめ，今後の自分の表現に生かしたり，見方や考え方も広げ，何より自分らしい表現を追求する材料になると考える。

材料との出会いが，児童の発想を広げていくきっかけとなるよう，集めた材料を児童同士でやりとりができるような場の設定も工夫したい。

鑑賞の際には，自分の思いを文章や言葉にも表し，自分の思いと作品とを結びつけて意味付けし，友人同士で鑑賞し合い，表現の多様性を認め，よさや美しさを認め合うことで，今後の表現活動の意欲へとつなげていきたい。

（４）評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
身のまわりにある材料を白く固めるおもしろさに興味をもち，でこぼこ画面に興味を示している。	でこぼこやざらつき，画面の形や大きさなどから，思いやイメージを広げている。	画面の特徴を生かす材料や技法を選んで工夫して表現している。	画面の形を生かした発想や表し方を感じ，認め合っている。

（５）指導と評価の計画　（６時間扱い）　※○印は時数

時　間	学　習　内　容・活　動	評　価　規　準・【評　価　方　法】
第 １ 次 ①	身のまわりのものを選んで並べながら，白く固める活動に興味をもち，楽しんでこぼこをつくる。	・身のまわりにあるものの形や触り心地のよさを感じ，選んで材料を集めている。 関【観察・行動】 ・材料の生かし方や組み合わせを考えながら，材料を選んでいる。　関【観察・発言】

		・白く固めたときの様子をイメージしながら，材料の置き方を試している。　想【観察・発言】
第 2 次 ②	材料を液体粘土で白く塗り固めながら，でこぼこの形から感じたことや考えたことをもとに画面づくりを楽しむ。	・でこぼこの大きさや太さ，並び方や重なり方などに注目して自分のイメージを広げている。 想【観察・ワークシート】 ・画面全体の様子から感じることをもとに，表したいことのテーマを思いついている。 想【観察・ワークシート】
第 3 次 ②	思いついたことに合わせて，材料や技法を選び，画面の特徴を生かす表し方や材料を工夫して描く。**（本時　②の１）**	・固めた材料の違いから感じるでこぼこの特徴を味わいながら，絵の具の使い方を変えたり，新しい表し方を見つけたりしている。 技【観察・作品】 ・表したいイメージに合わせて，色や模様を工夫している。　技【観察・作品】
第 4 次 ①	友人と作品を見せ合い，友人の感じ方や工夫から気付いたことを伝え合ったり，違いやよさを話し合ったりする。	・にぎやかな感じ，静かな感じなど，全体の印象から友人の表し方に関心をもって発表している。　鑑【発表・ワークシート】 ・でこぼこの形と表し方の工夫のつながりを伝え合いながら，自分の活動を振り返っている。 鑑【発表・ワークシート】

（６）本時の展開

①　目標

でこぼこ画面から感じ取ったことから，自分の思いやイメージをふくらませて，画面の特徴を生かし，色や線を工夫しながら，表現することができる。

②　準備・資料

・学習カード　・段ボール紙　・液体粘土　・木工用接着剤　・スポンジ　・はさみ
・集めた材料　・絵の具　・布　・霧吹き　・歯ブラシ　・スポンジ　・凧糸　・ぞうきん

③　展　開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価　　〇発問
１　本時の学習課題を確認する。 **でこぼこの画面を生かして，自分のイメージを表現しよう。** ２　でこぼこの画面の，線や形，質感から，思いついたことを考えたり，イメージマップに書き足す。	・でこぼこの画面と対話をさせ，線や形，素材の表面の感じなどから，イメージするものを考えさせ，思いついたことをイメージマップに書き出させる。 ・自分の思いを蓄積したものは，活動の中で活用させていく。 ・児童の状態を見取り，困っている児童には，画面と対話してみようと声かけをする。

3　自分の思いに合わせて絵の具等でイメージを描画する。 ① イメージマップを見ながら，表したい色，構成を考える。 （児童が表したい感じ） わくわくするような世界・怖い世界 緑の自然の中・広い宇宙・深い海の中 明るい感じ・暗い感じなど	○でこぼこの盛り上がったところは何に見えるかな。 （「岩」と答えた場合は）岩からイメージするものは何かな？どんな様子かな？ ・さらにイメージを広げながら，思いに合わせて色や構成を考えて描画する。 ・きれいな世界”など児童から発せられた言葉を受け止め，きれいな感じにするために，どんな色をつくりたいのか，どんな形や線を描きたいのか，具体的なイメージになるよう言葉がけを行う。
② 離れてみたり，角度を変えて見ながら，全体の構成を考えながら描く。 ・より思いに合った表し方や技法を見つける。 筆以外の用具での描画（スポンジ・布，霧吹き）スパッタリング	○置く場所や見る角度をいろいろ変えてみよう。 何か見えてきたかな。どんな色がいいかな。 ・自分の思いに近づけるために必要な描画用具，表し方を見つけ，試すよう言葉がけをする。 ・より思いに近づけるよう，新たに付け加えたり，細部の感じをどのようにするかを考えさせる。 ・自分なりの表現を考えながら活動したか。新しい発想や工夫している点などを見つけていくようにする。 ・児童一人一人のよさを賞賛し，児童が楽しく，安心して自己表現できる場や雰囲気付くりをする。 技　自分の思いやイメージをふくらませて，画面の特徴を生かし，色や線を工夫しながら，表現することができる。　（観察・作品）
4　できた作品を見て感想を発表し合い，本時を振り返る。 ・自分の思いにどこまで近づけることができたか，自分なりに満足しているかを図工カードに書く。	・次時に発表会をするため，本時は簡単な感想を発表させる。 ・本時の自分の活動を振り返り，自己評価の場を設定する。

3　成果と課題

【成果】

○題材について

表現で使う材料を自分で考え集めて用意したり，新しい材料や用具を取り入れたり，児童一人一人の関心や意欲を喚起する題材を取り上げることで，自分なりに工夫して表し方を試し，見つける活動が多く見られた。つまり，試行錯誤をくり返しながら児童たちは，自分らしい表現方法を考え，作品をつくり出すことができた。

たまたま集めていたアルミ缶のふたや，壊れてしまって捨てようと思っていたかさの持ち手部分，貝殻など，「こんなものも材料にしてよいですか」と質問してくる児童の姿も多く見られた。自ら主体的に身近なものに働きかけ，表現材料にならないだろうかと考えたり，自分の表したい思いに合うよう材料を切ったり組み合わせたり，児童たちは積極的に自分らしい表現活動を行うことができ

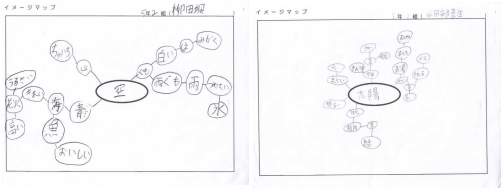
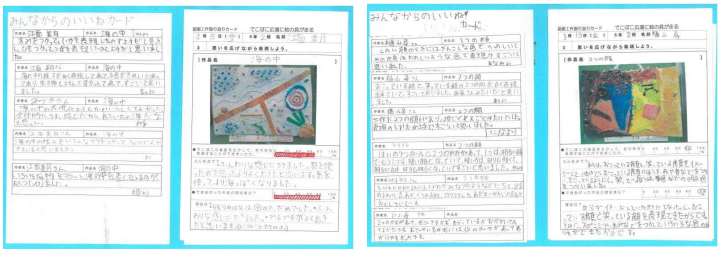
たのではないかと考える。

（集めた材料を貼りながら発想を広げていく）（液体粘土で画面を白く固め，さらに発想を広げる）

○発想や構想を広げるための学習指導の工夫について

真っ白な平面の紙に描画するという今までの表現形式から抜けだし，多様な材料を使って，でこぼこの画面を構成することで，偶然できた形からもイメージを広げられ，失敗をおそれず，自分らしい表現に対する考えを深めることができた。児童が試行する場を保障し，その中で感じたことからイメージを広げていく過程を取り入れたことは，なかなかイメージが浮かばない児童や，イメージするのが苦手な児童にとって有効な手立てとなった。

また，イメージマップや図工カードによって，作品への思いや願いをふりかえりながら，表現活動に生かすことで，児童たちは，常に自分の思いに沿った表し方を見つけながら，自分らしさを追求することができたと考える。

［思いを広げるためのイメージマップ］　　［表したい思いを記録した図工カード］

○創造的な技能を生かすための学習指導の工夫

前学年までの材料や用具などについての経験や技能を生かしながら，絵筆による描画だけでなく，スパッタリングやドリッピングを試す児童，霧吹きで色づけする児童，絵の具の上からチョークで描画する児童など，いくつかの表し方を組み合わせ，自分の思いに合った表現をすることができた。

（スパッタリングやドリッピングで表現する児童）（絵の具を吹きつける児童）（作品名「音の戦い」）

○児童への支援・評価方法の工夫

今まで，思うように描けないで悩んでいたり，上手く描けないと作業が止まってしまっていた児童も，材料を手に取りそのまま画面に貼るのではなく「この筒を切って貼ってみたら，いい形になったよ」と喜んで画面構成を楽しむ様子が見られた。「画面にリズムが生まれたね」と賞賛すると，画面全体の構成を意識し始め，表現を広げていく様子も見られた。製作段階においての児童の発想や工夫を見取り，賞賛したり共感したりすることで，一人一人が意欲的に活動を始め，さらに工夫しようと積極的に活動に取り組むことができたと考える。またその結果，児童自身が，達成感や満足感を得ながら作品をつくることができた。

【課題】

本研究では，「自分らしさを表現する造形教育を考える」ことをテーマとして，「絵に表す」授業実践をとおして研究を進めてきたが，今後は「造形遊び」や「立体に表す」実践においても，本研究のと同様に成果が得られるかどうか実践していきたい。